

気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会（第3回） 議事要旨

日時：令和5年6月27日（火） 13：30～15：15

主な意見は以下のとおり。

- ・2100年を見据えた整備方針であるが、IPCCの2℃上昇シナリオでは2050年時点で既に2℃上昇に到達する予測もあり、これを踏まえた整理が必要である。
- ・現計画の降雨規模（年超過確率1/20、区部：時間最大75mm、多摩部：時間最大65mm）が、気候変動を考慮すると治水安全度が低下してしまうことから、気候変動を考慮した年超過確率1/20に対応する必要があるということを図などで示した方が良い。
- ・目標整備水準の年超過確率1/20の採用について、分析結果だけを見ると年超過確率1/15の費用対効果が一番高いため、国土交通省の『気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言』を参考にしつつ、都の考え方を踏まえた説明や記載方法の工夫が必要である。
- ・ハード対策とソフト対策の連携について、両者を組み合わせて減災対策を発揮していくなどのスタンスや表現があるとよい。
- ・対策強化流域以外の流域についても整理が必要である。
- ・必要堤防高さの設定にあたり、現行計画の高潮偏差を考慮して設定する以外にも、高潮推算の計算結果をそのまま採用するやり方も考えられる。

以上